

# アムスルだより

No.24 1997年 3月10日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

TEL:098-987-2304

FAX:098-987-2875

アムスルとは、阿嘉島臨海研究所のニックネームです



## サンゴ礁のいが栗ぼうず

-ナガウニ-

浜下りの季節がやってきました。潮が引いたサンゴ礁を歩いていると、そこらじゅうに大小の穴があいているのを見ることができます。これらの穴には様々な生き物がすんでいます。その中でも、トゲだらけのいが栗のような生き物は、なぜか、その穴にあつたようにぴったりと収まっています。

これは、体がだ円形をしていることからナガウニと呼ばれているウニです。阿嘉島の東岸ハンタジャキ付近に特に多く、岩礁の穴の奥をたんねんに探すと、1m四方の中に4~5個体のナガウニを見つけることができます。これらのナガウニをよく見ると、黒いものやピンク色のもの、緑色のものやトゲの先端の白いもの、トゲの付け根に白いリング模様のあるものなど様々なものがいます。これまでは、それらをすべて1つの種としていました。ところが、最近の研究では、ナガウニは5種に分類されることが分かってきました。それぞれの種は、色や大きさも違うの

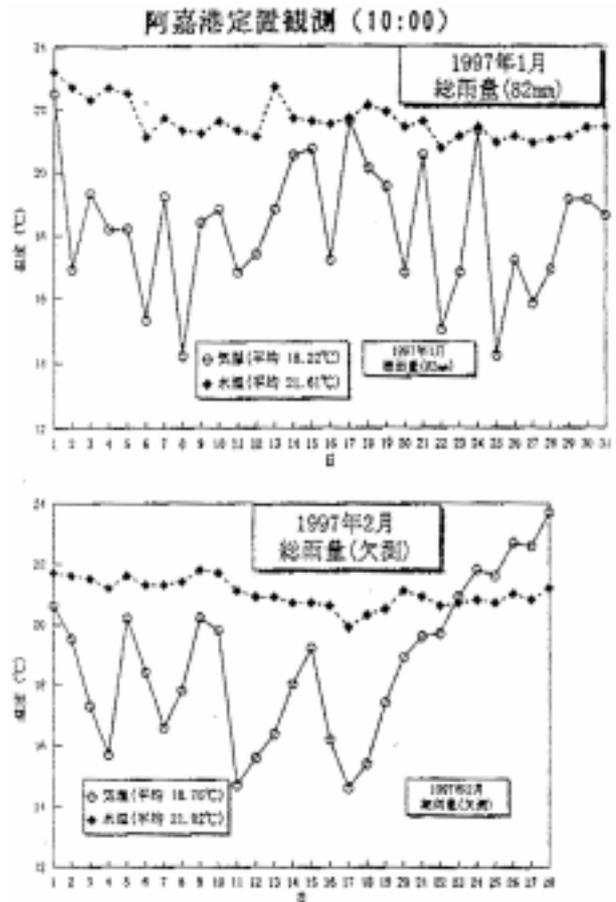
ですが、温度や塩分、乾燥といった環境条件に対する耐性にも差があるため、それぞれの生息場所も異なっているようです。たとえば、トゲが単一色でその根本に白いリング模様のあるリュウキュウナガウニは、最も耐性が高く、干潮のときには干上がってしまうような場所にもすんでいます。トゲの先端が白いツマジロナガウニは、最も耐性が低く、潮が引いても海水のたまっている潮だまりや、潮が引くことのない深い場所にすんでいます。

このように、自分たちにとってすみ良い環境を探すには移動をしなければなりません。では、ナガウニはどうやって移動するのでしょうか。一見すると、あのトゲを使って移動しているように思えますが、実は、ウニが移動するときトゲはあまり重要ではありません。ちょっと見ただけでは分からないのですが、管足(かんそく)というものを使って移動しています。これを観察するのに良い方法があります。まず、海水をはったバケツに捕まえたばかりのウニを逆さにして入れてみて下さい。そのままじっと観察していると、すぐにトゲの間からヒモのようなものがたくさん伸びてくるのが見られるはずです。これが、先ほどの管足です。管足の先端は吸盤になっていて、これで岩

やバケツにはり付き、体を引っ張って移動したり、壁を登ったりするのです。その移動は思いのほか速く、逆さにしたウニもあっという間におき上がります。

ウニの口は、ヒトデと同じように体の下側にあり、上側に肛門があります。ウニをひっくり返してみると中央にある口には、5個の白く鋭い歯を見ることができます。この歯で、岩に生えている海藻などを削り取って食べるのですが、同時に、岩そのものを削ることもできます。そうして、自分の体の大きさに合う穴を掘り進み、そこにすっぽり収まってしまいます。穴の中にすんでいれば、強い波や外敵がやってきても、ひっくり返ることなく、自慢のトゲで身を守ることができます。そのためでしょうか、ナガウニたちのこの穴に対するしゅうちやくは強く、ほとんどの場合1つの穴には1個体のウニしか入っていません。他のウニが侵入してくると、激しくトゲを振って穴から追い出してしまうのです。

外見はいが栗のようなナガウニですが、残念ながら食用にはされてません。しかし、タマンなどの魚によって食べられます。また、穴ができるということは、それだけ生物の住める場所が増えることにつながります。実際に、ウニのいなくなった穴の中に海藻がしげり、エビやカニや貝などのかくれ家になっているのをよく見かけます。ナガウニたちも、サンゴ礁生態系の大切な一員なのです。しかし、ナガウニは着生したばかりの小さなサンゴもかじりってしまうので、あまり増えすぎるのも困りものです。



### 国際サンゴ礁イニシアチブ

2月16日~20日、沖縄コンベンションセンターにて、国際サンゴ礁イニシアチブ第2回東アジア海地域会合が、12カ国の参加のもと開催されました。一般県民も参加したシンポジウムでは、赤土汚染などに対して行政への厳しい意見が上がりました。東南アジアの国々でも、乱開発などによるサンゴ礁の荒廃が進んでいるのが現状です。これらを見逃ごさないため、サンゴ礁保全に対する住民の世論を高めていくことが大切です。そのために、教育啓蒙活動や、サンゴ礁の現況調査、データベースの作成などを、国際協力のもとに進めていくことが宣言されました。阿嘉島臨海研究所も、これらの活動に参加していきたいと思ひます。